



「流鏝馬」(部分) 2019年 © 中島潔 (990mm × 1900mm) 和紙に岩絵具・顔彩



「ねぶた師」(部分) 2020年 © 中島潔 (990mm × 1900mm) 和紙に岩絵具・顔彩  
日本を代表する祭り「ねぶた祭」。そのねぶたを制作する女性ねぶた師の制作にかける思いを、そのまなざしに表現した

新年号特集

# 画業50周年 女性が輝く未来 一瞬間の“煌めき”

## 中島潔 令和の心を 女性に描く

### 伝統文化 に生きる女性 モデルに

テーマは

# 「女性の強さ」

1月1日  
開幕

佐賀県立美術館

『風の画家』として知られる唐津市厳木町出身の中島潔さん(78) 静岡県熱海市の画業50周年特別展「女性が輝く未来 一瞬間の“煌めき” 令和の心を女性に描く」が来年1月1日から佐賀市の佐賀県立美術館で開かれる。佐賀での展覧会は7年ぶり。これまでではかなげでたおやかな女性を描いてきたが、本展では令和というこの時代に日本の伝統や文化を受け継ぎ、新しい風を吹き込んでいる女性たちの「瞬間」を切り取った新作を披露する。主催・佐賀新聞社、特別協賛・九電グループ。会期は2月13日まで。

中島さんは、常に新しいテーマに挑戦し続け、その中で見つけた発見を作品に取り入れてきた。その中島さんが画業50周年にあたって選んだのは、これまでの歩みの中で描き切れていなかったと気づいた「女性の強さ」。パリで暮らした経験から、「世界は一つ」と言われるようなこれからのグローバル社会では、自国の伝統や文化、考え方をしっかり持つておくことが大切と痛感しており、そうした意味合いも含めて、日本の伝統的な世界で活躍する女性たちを、四季の移ろいを背景に鮮やかな色彩で切り取ることで、「今」この瞬間を生きる「女性の強さ」と「女性の美しさ」を表現、より女性が輝けるような時代になっていくことへの願いも込めている。

”新しい切り口でエール



2021年11月末、静岡県熱海市のアトリエにて。若いころ温泉掘りとして働いた伊豆下田に近いここで制作を続ける

「今まで本格的な題材として『馬』や『鷹』などを描いたことはありませんでした。得意とは言えない題材にあえて挑んで、それでも描きたかったのは、それらとの関わりの中で生きる女性の力強い生き方を表現したいと思ったからです。男にはない女性の強さはそのまま美しさにつながります。幼いころ、母の強さの中に感

じたある種の美しさは、くよくよしがちな僕にはまぶしく、憧れに近い気持ちになりました。このシリーズで、心の中で大切にしていた女性像を新しい切り口で表現できたとすれば、そして、それが今を生きる女性たちへのエールとなれば、それ以上に幸せなことはありません」

特集の最終ページに中島潔さんのサイン会の案内やチケット情報があります。

## 第一部「ふるさとの情景」

中島潔さんの画業50年を、未発表の最新作を中心に作品89点で紹介する特別展。  
第一部は「ふるさとの情景—四季の詩—」。中島さんの代名詞ともいえる、四季折々の風が吹き抜け、郷愁漂う童画シリーズの近作「大漁旗」「老木の春」などを出品する。



「老木の春」2016年 © 中島潔 (490mm × 720mm) ケント紙に水彩



「大漁旗」2019年 © 中島潔 (490mm × 716mm) ケント紙に水彩  
朽ちていくもの(船)とこれから育っていくもの(子どもたち)。「そのすべてが人生なのだから、すべてを祝おう。」そんなメッセージを込めた作品

# 50年の集大成

## 最新作など89点で紹介

### 第二部「女性美の情景」

第二部は「女性美の情景—ひとときわの美しさ—」で、平成以降の作品から、これまで描いてきた乙女たちの作品を中心に約15点を展示、「令和の女性画」を描くに至るまでの変遷をたどる。



「mail (部分)」2012年 © 中島潔 (440mm × 635mm) 和紙に岩絵具・顔彩

花に囲まれて携帯電話に見入る女性はどんなことを思っているのだろう。これまでは「手紙」を描いてきたが、時代に合わせて「メール」に置き換えた作品



「こいざん」2018年 © 中島潔 (725mm × 910mm) 和紙に岩絵具・顔彩



「永久への言葉」2017年 © 中島潔 (795mm × 1155mm) 和紙に岩絵具・顔彩



「向日葵」2002年 © 中島潔 (450mm × 750mm) 和紙に岩絵具・顔彩



「雪の忘れもの」2016年 © 中島潔 (493mm × 720mm) ケント紙に水彩



「さざ波」2016年 © 中島潔 (350mm × 490mm) ケント紙に水彩

# 中島潔さんの歩み

- 1943年 中国東北部（旧満州）で生まれた。
- 1944年 両親の生まれ故郷の佐賀へ戻った。
- 1961年 18歳の時、母の死により上京を決意。静岡県・伊豆下田の山中で温泉掘りとして働きながら独学で絵を描き続け、新聞への投稿をきっかけに東京でイラストレーターとして活躍、数々の賞を受賞した。
- 1971年 28歳。広告代理店で働いていたが、「自分がいる場所はこちらではない」という気がして絵を勉強しようと突然パリへ旅立つ。美術学校にもぐり込み、女性教師が見つかるが、追い出されるどころか、女性教師は「線がいい」とほめてくれた。多国籍の人たちに囲まれ学ぶ中、画家になって「僕は僕の絵を描こう」と決意する。
- 1982年 帰国後、作品展開催を断られ続けるが、39歳でNHKテレビ「みんなのうた」のイメージ画を手掛けて大ヒット、一躍人気作家へ。
- 1990年 47歳、中国文化庁の招きで海外初の個展を北京・故宮で開催。
- 1991年 佐賀新聞に「ふるさと憧憬」を連載。
- 1998年 「源氏物語 54帖」が完成。
- 2003年 60歳を迎えたのを機に、画家になる原点となったパリに約1年間滞在。パリの風景を題材に新たな世界を描き出した。
- 2010年 67歳。京都・清水寺成就院に「生命の無常と輝き」ふすま絵 46枚を奉納。
- 2015年 72歳。京都・六道珍皇寺（ろくどうちんのうじ）に「地獄心音図」を奉納。
- 2022年1月 78歳。画業50周年の特別展「一瞬間の“煌めき、令和の心を女性に描く”」開催。これまでのほかない印象の女性画のイメージを一新し、しなやかに優しく、それでいて内面に強さを兼ね備えた女性画で新境地を開く。



# 佐賀の女性に見てほしい



中島 潔さん



熱海の海を見晴らす高台にある、中島潔さんのアトリエ



きらめく熱海の海。11月末と思えないほど日差しも暖かった



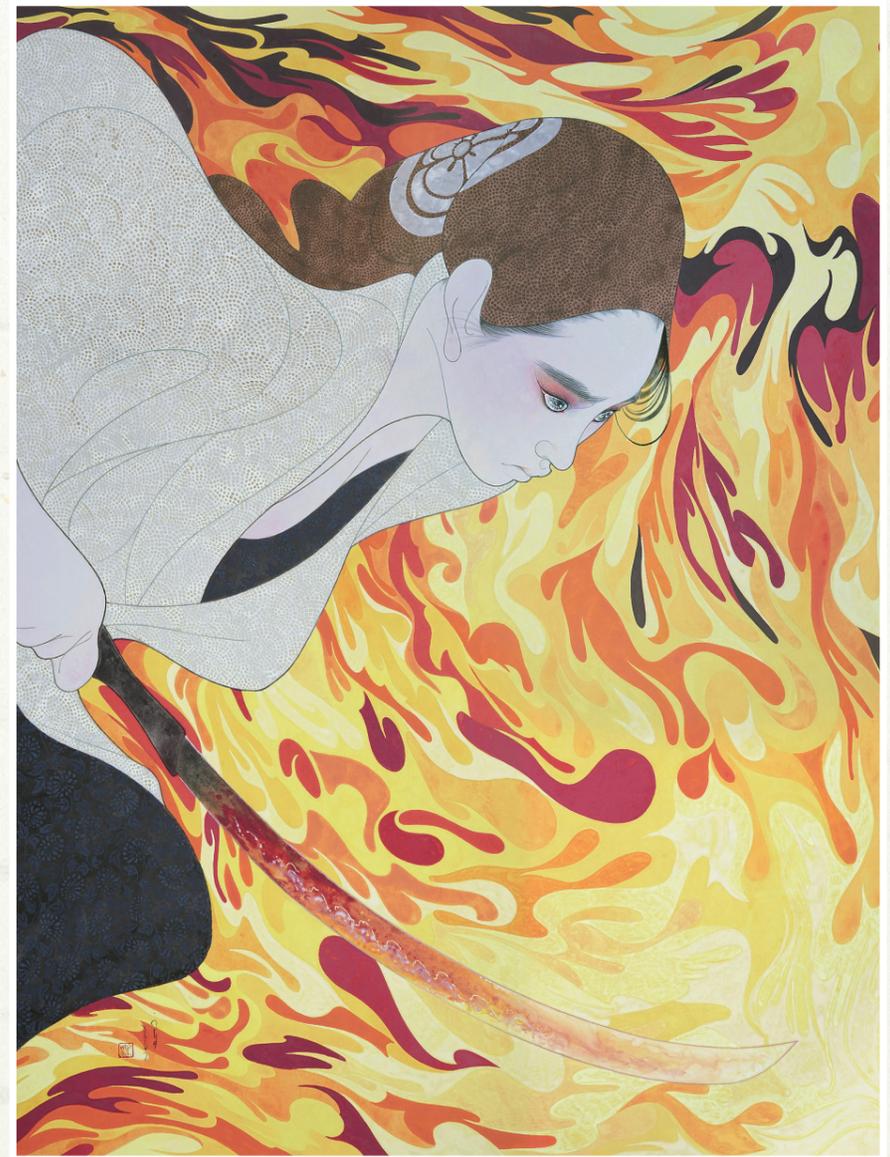
「歌留多」(部分) 2019年 © 中島潔 (990mm × 1900mm) 和紙に岩絵具・顔彩  
女性の持っている一瞬の気迫を美しい姿で描きたい。そんな思いで「静」と「動」が交錯する一瞬を切り取った



「鷹匠」(部分) 2018年 © 中島潔 (990mm × 1900mm) 和紙に岩絵具・顔彩



「クロッキー（裸婦）」50年前（28歳のとき）、もぐり込んだパリの美術学校で約10分という短い時間で描いたクロッキーの一つ。厚い束になるほど描き続けた



「刀鍛冶」2021年 © 中島潔 (1167mm × 910mm) 和紙に岩絵具・顔彩  
展覧会直前に描き上げた最も新しい作品。刀は人の命を奪うものだが、命を生み出し、守る女性がつくれれば意味合いが違う刀ができるのでは。そんな願いを込めた

そして、第三部はメイン企画「一瞬間の“煌めき” 令和の心を女性に描く」のコーナー。「新たな挑戦」と銘打ち、「ねぶた師」「流鏝馬」「歌留多」「鷹匠」「刀鍛冶」など日本の伝統に関わる女性を新しい切り口で描いた大作10点を公開。繊細な描写でありながら、大胆な構図で、かつ、生命力あふれる作品はまさに新境地をうかがわせる。最後は特別企画で、中島さんの女性画に共感する日本現代美術の旗手たちの作品を紹介する。

## 第三部 「一瞬間の“煌めき”」



### 読者プレゼント

応募詳細はP117 プレゼントページへ

画業50周年 女性が輝く未来 一瞬間の“煌めき”  
中島潔 令和の心を女性に描く

無料鑑賞券  
ペア3組6名様

## 中島 潔さんサイン会

※会場で版画、書籍、図録を購入した、先着100人が対象

1月16日(日)、2月6日(日)

〈両日とも〉11:00 ~ 12:00

### 前売り券販売所

～12/28まで 佐賀新聞社、佐賀新聞文化センター、佐賀県立博物館  
～12/31まで 佐賀新聞販売店、佐賀玉屋、イオンモール佐賀大和、モラージュ佐賀、各プレイガイド(ローソンチケット、チケットぴあ、セブンチケット、イープラス)

### 当日券販売所

展覧会会場、各プレイガイド

- 会場/佐賀県立美術館(佐賀市城内1-15-23)
- 会期/2022年1月1日(土・祝)～2月13日(日)
- 開場時間/9:30～18:00(17:30最終入場)
- 休館日/1月11、17、24、31、2月7日
- 問い合わせ/佐賀新聞プランニング ☎0952-28-2151(平日9:30～17:30)

観覧料	前売り	当日(平日)	当日(土日祝日)
一般	1,100円	1,200円	1,400円
中高生	800円	900円	1,000円
小学生	400円	500円	600円